
我が家の天使さま

黒雀

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

我が家の天使さま

【Nコード】

N6832L

【作者名】

黒雀

【あらすじ】

『赤き魂』。

体内に取り入れると、永遠の命が与えられるという、伝説の代物。これをめぐって、天使、人間、鬼の思惑が交差する！

『我が家の天子さま』第一弾、スタート！！

(前書き)

どうも、黒雀です。

まだまだ未熟者ですが、温かく見守ってやってください。

ドン！っと男が机を叩いた。その勢いで、机の上の紙が辺りに散らばる。

ここは町外れの森の中。普段は人々が『悪魔の城』といって近づかない城の中に男は一人の家政婦と一緒に暮らしていた。

男の顔は、病人かと思わせるほど、白く、唇は血の気が失せたかのように、青白かった。

「どうしてだ、どうして『あれ』が『あれ』の中にあるんだ？」

男は、恐怖と不安と謎に満ちた表情を浮かべていた。そして時折、「なぜだ」と呟きながら、机を叩き続けた。

男が少し落ち着いた頃、男のこもっていた部屋の扉が、乱暴に叩かれた。

男が恐怖に顔を歪める。

「い、ああ……ああああ……。」

男の口から悲鳴が漏れる。

「ああああ……殺される。『悪魔』に殺される……。」

そう言っつて男が扉から離れようとする。

「ああああああ……。」

恐怖のあまり、正常な判断を下せなくなった男は、近くにあった

ペンをおもむろに握むと、自分の首に勢いよく突き刺した。
ザーッと鮮血が辺りに飛び散る。

「どうかありませんか、ご主人様？」

家政婦がドアを開ける。この部屋から、物音がしたから見に来たのだ。

「ご主人様？」

家政婦が部屋の中に入って探し始める。しかしそこに男はいなかった。もちろん真っ赤な血も……。

(後書き)

この間、衣替えしていたら、千円札が出てきました。
?

何故

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6832/>

我が家の天使さま

2010年10月17日19時50分発行